

九州中央自動車道 矢部清和道路中心杭打ち式開催



12月10日、清和文楽館において九州中央自動車道の一部となる矢部清和道路の中心杭打ち式が開催されました。

式典には、蒲島知事をはじめ熊本県議会議員、国土交通省九州地方整備局、町議会議員及び地元関係者が参加され、梅田町長から関係者への感謝と産業の発展や観光振興への期待の言葉を述べました。また、坂本哲志衆議院議員からは、ビデオによりお祝いのメッセージを頂くなど、九州中央自動車道の早期全線開通にむけて、大いに盛り上がりました。

今年度、事業化された矢部清和道路は、令和5年度に完成予定の九州中央自動車道山都潤橋ICから清和IC（仮称）を繋ぐ全長10.3kmの自動車専用道路です。完成すれば、急カーブなど道路線形が厳しい箇所が多い国道218号を回避して移動が可能になり、医療施設への緊急輸送道路にもなります。また、交通アクセスの時間短縮により、福岡市や熊本市、延岡市などの都市部からの観光客の増加が期待できます。今後は、道路整備の基準となる測量作業が本格的に始まります。



杭打ち式典時の記念写真

中学生・高校生大活躍

式典では、清和中3年の荒木麻帆さんと北所柚華さんが司会進行の大役を見事に務めました。

また、矢部高1年の佐伯ふみさんは、長年培った書道を生かして、すべての中心杭に揮毫（きごう）しました。

